

本の扉

2月号
2025. 2. 7

前橋東高校 図書委員会
1年3組

新年が明けてからあっという間に1か月あまりが過ぎてしまいました。新年に決めた(であろう)目標に向かって元気に頑張っていきましょう。寒い日が続いているので、体調にも気をつけましょう。

”本の扉”では今年もおすすめの本をたくさん紹介していきます!!2025年もよろしくお祈りします!!



陽だまりの彼女



『陽だまりの彼女』

(著者:越谷オサム / 出版社:新潮社)

主人公が仕事の取引先で再会したのは当時から随分と垢抜けた中学時代の同級生だった。運命を感じた二人は惹かれ合い、結婚にまで至る。二人の様子や会話に癒やされ、穏やかな気持ちになれる作品です。しかし読み終える頃には涙が止まりません。恋愛要素はもちろん、ミステリー、ファンタジー要素も含まれているのでどんな人でも楽しめると思います。伏線もいたるところに散りばめられているので、繰り返し読んでみても良いかもしれません。

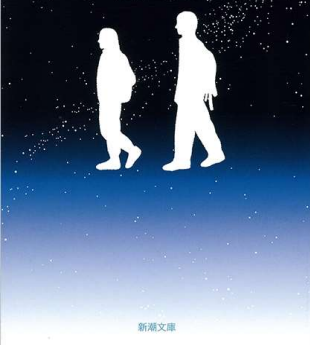
『博士の愛した数式』

(著者:小川洋子 / 出版社:新潮社)

事故の影響で80分しか記憶が続かない元数学の教授と、そこに派遣された家政婦の主人公、そして主人公の息子・ルートのお話。数学で繋がる博士とルートの交流に心が温まります。この本には数学の要素が多く出てきますが、数学に苦手意識がある私でもすらすら読むことができ、もっと私に数学の教養があれば……と悔しい気持ちになる程でした。数学の得意不得意に関係なく、ぜひ一度読んでみてほしい作品です。



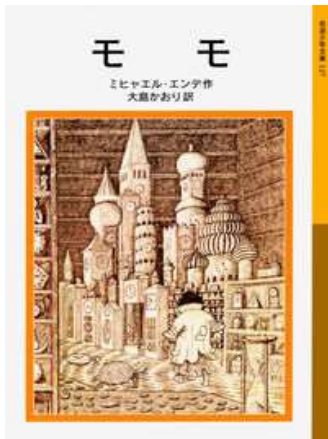
夜のピクニック



『夜のピクニック』

(著者:恩田陸 / 出版社:新潮社)

全校生徒が夜を徹して80キロ歩く「歩行祭」という学校行事を通して、登場人物の関係の変化を描いた青春小説。私達と同じ高校生のお話なのでかなり読みやすいと思います。また、登場人物の心情や情景の描写がとてもきれいで、まるで自分もみんなと一緒に歩いているかのような気分になります。今までに高校生を体験してきた先生方にも響く部分があるのではないのでしょうか。



『モモ』

(著者:ミヒャエル・エンデ 訳:大島かおり / 出版社:岩波書店)

町外れの円形劇場跡に一人で住んでいる少女モモ。モモも町の人達も幸せに暮らしていた。そこへ、人の時間を奪い取って生きている「時間どろぼう」が！モモは町の人達を救えるのか、そして「時間」とは何かを問われる作品です。個性的なキャラクターがたくさん登場してきます。ストーリーだけでなく、そのキャラクターとモモとの会話がとても面白いので、ぜひ読んでみてください！

『はてしない物語』

(著者:ミヒャエル・エンデ 訳:上田真而子、佐藤真理子 / 出版社:岩波書店)

主人公のバスチアンは早くに母親をなくし、いじめを受け、自分の居場所を失っていた。ある日、いじめっ子に追い回され古本屋へと逃げ込んだ。そこで見つけた「はてしない物語」という本に興味を持つ。その本を読み始めるとなんと本の世界へと吸い込まれてしまった！元の世界へ戻るため、バスチアンの冒険が始まる。この本は「ネバーエンディング・ストーリー」という題名で映画にもなっているファンタジー作品です。ぜひ読んでみてください！



📖 図書館の貸し出し状況(4/1~1/28)をお知らせします！

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計	職員
1年	586	54	131	37	156	-	964	363
2年	96	69	79	54	36	-	334	
3年	223	148	205	83	31	200	890	
						合計	2,188	2,551

🍎 図書委員会より

新春まえひがし図書館アドベントカレンダーやってるよ(^^)v

「まえひがし図書館」classroomで毎朝8:00に動画の配信をしています。

まえひがしの「誰か」が、みなさんにおすすめ本を紹介してくれます。

カレンダー(～2/9まで)はA棟の渡り廊下と図書室に掲示してあります。

